

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

1. 基本情報

体験談記入日 (☆)	2026 年 8 月 25 日
大阪大学での所属学部/研究科 (☆)	経済学部経済経営学科
留学時の学年 (☆)	3
派遣プログラム名 (☆)	☒ 交換留学 ☐ 研究留学助成金 ☐ その他 ()
渡航先国名・地域名 (☆)	ドイツ
滞在都市 (☆)	フランクフルト
留学先大学等名 (☆)	ゲーテ大学
留学先での所属学部/研究科 (☆)	経済経営学部
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日 (☆)	2025 年 9 月 5 日
渡航先からの出国日 (☆)	2026 年 8 月 7 日
渡航先国での滞在期間 (☆)	11 カ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	Changing Business Models of Insurance Companies Due to Internal and External Influence Factors 冬 セミナー
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	Accounting and Capital Markets 冬 セミナー
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	Artificial Intelligence in Finance 夏 セミナー

[illegible]

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	経済学部授業は、「筆記試験」のものと「プレゼンとレポート」のものがある
履修科目の制限等（あれば）	
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	冬学期は英語の授業が充実しているが、夏学期はマスターの授業が多く、学部生向けの英語の授業は冬と比較すると少なめ。
語学に関するサポート（特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等）	留学生のためのドイツ語講座を受けることができる。また、Buddy プログラムがあり、日々のサポートはもちろん、イベントなども企画してくれる。
授業内での留学生に対するサポート等	
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設（生協・購買・食堂）について	食堂はいくつかあり、カフェなどもある。
図書館について	5つあり、どれも広い
保健センター等の有無	
クラブ・サークル等について	有料だが体育の授業（サークルのようなもの）が受けられる。
留学生へのサポート	
オリエンテーション等学校主催の行事について	メールなどで案内がある
現地の学生との交流について	タンデムや授業、イベントなどで交流
他の留学生との交流について	留学生の数が非常に多いため、様々な国の人と友人になれる
学外での活動について（地域コミュニティ活動等）	ESN を始め様々なイベントがある 日本にルーツをもつ子どもたちの支援を行う団体でのボランティアを行った
長期休暇中の過ごし方	旅行、ボランティア
その他	

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	学生ビザ
ビザの取得手続きについて（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	日本で取得したため、予約は大変だったが、ドイツで困ることはなかった

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

利用航空会社	
入国の際の現地空港名	フランクフルト空港
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	
渡航後の手続き（在留届の提出、外国人登録等）	住民票登録、学生証の受取
その他	

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	フクシマグローバル人材支援奨学金財団奨学金
奨学金月額受給額（円）	10 万
入国時に用意した金額	
クレジットカードについて（カード会社名・日常の利便性）	
留学中に利用した銀行名	
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	
デビットカードの使用について	
日本からの送金方法について	
1 ヶ月の生活費（目安）	
その他	

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	一人部屋（キッチン、シャワー、トイレ共有）
家賃	289€
住居を探した方法・時期	学校の紹介。メールが来たらすぐ申し込みをした方がよい。
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	ハンドキャリー、リュックなど
その他	

5. 2 食生活についての情報

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	自炊
1ヶ月の食費	
その他	

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	
インターネットについて（Wi-Fi 環境等）	学校、寮ともに Wi-Fi 環境は整っている
コンピュータについて	
郵便について	DHL を利用
交通機関について	
治安について	治安の悪い場所を調べ避ければヨーロッパはどの国も比較的 安全だと感じた
保険について	TK を利用
医療機関・薬について	
気候と服装について	冬は雪が多く降り、夏は 40℃ほどになる日もあった。
普段の買い物について	REWE や Penny を利用、Lidl、Aldi など格安でありがたい。
娯楽・行事について	
日本語の使用について	
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	日本食、日本のお菓子は友人に日本を紹介するのに役に立つ。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	スピーキング、ドイツ語をもっと頑張ればよかった。
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	触れる程度で行った。
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等）	ロンキャリに参加、選考にはのらなかったが、他の留学生から刺激を受けることができた。 夏インターシップの選考

7. 語学の学習方法について

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	
留学中の学習方法、工夫したこと等	色々なイベントに参加し、友人を多く作り、たくさん話す。
留学後にどれくらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	日常会話は問題なくできるようになった。

8. その他

留学して得られたこと	今までなかった考え方、価値観、それを知る面白さ
留学中に困ったこと	
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	外務省の学生ビザに関するサイト、Expatrio の申請方法、利用方法などが分かるサイト

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

私は大学で留学したいと考えており、中でも多文化共生に興味があった私は移民国家であるドイツでの留学を決めました。留学が終わってしまった今は現地でできた友人、その友人たちと過ごした楽しい日々が非常に恋しいですが、それと同時にそんな気持ちになるくらいに充実した留学であったことを感じています。

まず、授業に関してですが、私はレポートやプレゼンテーションによって評価される形式のセミナーをとっていました。そのため、英語で学術論文を読み、その内容を理解した上で自分の考えを文章としてまとめたり、英語で発表したりする機会が多くありました。また、他の学生の発表を聞くことで、授業内容そのものへの理解を深めるだけでなく、自分とは異なる考え方や視点に触れることもできました。専門知識に加え、英語力や多様な価値観を身につけることのできた経験だったと感じています。また、経済学部のほとんどの授業では、学期末の筆記試験を受験する段階で正式に試験登録をする形式だったため、単位取得を目的としない場合でも、興味のある授業に積極的に参加しました。その中では、金融業界の最前線で活躍されている方の講義を聞いたり、欧州中央銀行を訪問したりする機会もありました。ヨーロッパを代表する金融都市であるフランクフルトで、実際の金融機関やそこで働く人々に触れながら学ぶことができたことは、現地だからこそ得られた貴重な経験でした。さらに、経済学部以外では、英語、ドイツ語、中国語などの語学授業にも積極的に参加しま

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験

した。語学力そのものを向上させることに加え、さまざまな授業やコミュニティに所属し、できる限り多くの人とコミュニケーションを取ることを意識していたためです。特に印象に残っているのが、中国語の授業です。この授業はドイツ語で行われており、当時ほとんどドイツ語を話すことのできなかった私にとって、授業内容を理解すること自体が大きな挑戦でした。しかし、クラスメイトが分からない部分を何度も助けてくれたことで、徐々に授業にも参加できるようになりました。また、授業外でも交流する機会が増え、週2回の授業が毎週楽しみになるほど、大切なコミュニティの一つとなりました。語学を学ぶこと以上に、言葉が十分に通じない状況でも周囲に助けを求め、自分から人間関係を築いていくことの大切さを学ぶ機会になったと感じています。

次に課外活動などに関してですが、私は一年間の日本にルーツを持つ子どもの教育支援団体でのボランティアや住み込みボランティア、難民支援ボランティアなど様々なボランティアに参加しました。どれも日本では参加できないもので、そこで出会った人たちとの交流、体験すべてがかけがえのないものでした。それと同時に色々なことを考え、自分の価値観や考え方が変化していったとも感じます。ボランティアに限らず、日々の生活でも本当に多くの国の方と交流し、色々な話をし、共に旅行に行きと大変楽しい時間を過ごすことができました。

このように、この1年間を振り返ると、大学で専門分野を学ぶだけでなく、異なる言語や文化、価値観を持つ多くの人々に関わり、自分自身の考え方を問い直す機会を数多く得ることができました。当初は、言葉が十分に通じないことや、相手との価値観の違いに戸惑うことも多くありました。しかし、そのような状況でも自分から一歩踏み出し、人と関わり続けることで、徐々に新しい環境の中に自分の居場所をつくることができました。

特にヨーロッパの人たちは英語をネイティブのように話します。同じ第二言語のはずなのにと伸び悩む自分の英語力に落ち込むことも多くありました。しかし、韓国人の友達に「元々アルファベットが全然違うんだからしょうがないよね」と言われ、それくらいに割り切れればいいかと思ってからは心の底から友達たちとの時間を楽しめるようになった気がします。またこれは私の性格からかもしれませんが、とにかく毎日誰かと関わるのが大事だと思っていたので、一日家に居ただけで留学に来た意味がないような気がしてきてしまったりすることもありましたが、親に外国人として価値観も全く異なる国で生活できているだけで十分だと言われ心が軽くなりました。だからこそ、これから留学に行かれる方には、周囲の人を頼り、自分を縛りすぎないでほしいと思います。気負いすぎず、うまくいかない時は「そういう時もある」と割り切って過ごしていれば、帰国する頃には、本当に帰りたくないと思うほど大切な人や場所に出会い、思い出であふれているのではないかと思います。

留学を考えている方には、ぜひ挑戦することをお勧めしたいです。スマホ一つで海外のことを知り、海外の子と知り合える時代であるからこそ、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じることは自分のこれからの人生を本当に豊かなものにしてくれると思います。これから留学に行かれる方へは、その経験が素敵なものとなることを心から願っています。